HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	経済学部創立25周年記念号の出版にあたって
Citation	北海道大學　經濟學研究, 29(1)
Issue Date	1979-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/31439
Type	bulletin (editorial)
File Information	29(1)_Pi-ii.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

経済学部創立25周年記念号の出版にあたって

1960年以降，とりわけＩＭＦ（国際通貨基金）体制の崩壊前後から，価値観の多様化とか，〝不確実性の時代〟とかいう理論的にはあまり明確でない用語が人々の口にしばしばのぼるようになってきた。それは歴史としての現代がいよいよ大きな転換点にさしかかり，経済や政治や文化の諸現象が，これまでの理論的枠組や装置では処理しきれなくなったことを，直観的に表現し共鳴を喚起しているように思われる。例えば，経済現象としては雇用と物価と国際収支とのトリレンマ，さらに，これらの現象が深刻化したスタグフレーション＝失業とインフレーションとの同時進行，国際通貨ドルの金交換停止と変動為替相場（フロート）制への移行など。また，政治現象としては先進諸国首脳会議の矛盾に充ちた共同声明，第三世界の台頭や国連を場とする〝新国際経済秩序〟，さらに社会主義諸国間での対立などなど。そのどれ一つをとってみてもダモクレスの剣のような難問である。

このようなきわめて厳しい状況を背景として，わが経済学部は，1978年８月１日付でもって学部独立25周年を迎えることになった。その前史を付言すると，法文学部経済学科（1947年４月に創設）にまで遡り，さらに法経学部に再編（1950年）され，その３年後に経済学部として独立している。25年を人に譬えれば銀婚式にあたり，人生の第２期に入る年輪ではある。われわれはこの日を歴史の大切な節目としていろいろな記念事業を企画したが，ここに出版する記念論文集もその一環をなすものである。本学部の歴史は，明治100年に比べて必ずしも長いものとはいえない。第二次大戦後に新設された文系学部の一つでありながら，もしそれ以上の年輪といったものを感じさせるものがあるとすれば，われわれは３年前に全学的に祝典を催した北海道大学創基100年の風雪と歴史の重みに想いをいたさざるをえない。

本学部の25年の歩みは――戦後の日本経済が戦後復興，景気の山と谷，高度経済成長期を経てきたように――前史の法文学部経済学科２講座から出発

して，学部独立時に８講座となり，現在，経済学科９講座および経営学科８講座の計17講座となっている。さらに大学院経済学研究科の設置（学部独立時）とともに，1976年大学院研究科に経営学専攻が増設されて，量的に拡大・発展をとげてきた。いまや，わが国の高度経済成長の行詰りと＜安定成長路線＞への転換点にさしかかって，本学部も研究・教育の今後の一層の発展を期して，＜量から質へ＞と内容の充実強化を図るべき時期を迎えているように思われる。

われわれは，この時点で大地に足をしっかりつけて，先学の労苦を感謝をもって想起し，その研究・教育の成果を受け継ぎながら，現代的課題の創造的，理論的な解明に努めること，かくて，各専攻分野で研究と教育の実をあげ，有為の人材養成と真の福祉経済の発展に寄与できること，を強く念じている。

最後に，この記念号の出版にあたり多忙ななかで玉稿を寄せていただいた，旧同僚教官の内海庫一郎教授（現在武蔵大学）および長尾昭哉教授（現在筑波大学）に心からお礼を申しあげる。以上，いささか所感をのべ，記念論文集出版の粗辞としたい。

１９７９年３月

北海道大学経済学部長　松　井　安　信